お　わ　り　に

本校では、平成４年度から、障害児教育の目標である社会的自立を達成するためには、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーションの力が不可欠であると考え、研究テーマ「発達と障害に応じた教育をめざして――コミュニケーションに視点をあてて――」を設定して研究実践に取り組み、３年が経過してまとめの年を迎えた。

昨年度までは、実践すべき部分はどこか、理論研究と実態把握を行った。そして、児童生徒の望ましいコミュニケーション像にせまる「授業づくり」の視点を単元や題材の設定と配置の工夫・指導者の関わり・個を生かす指導の工夫と明確にして授業実践に取り組んできた。

そこで、本年度は、今までの「授業づくり」の総まとめとして個々の児童生徒にコミュニケーションの力がどこまでついたか、ついた力を集団や実生活の場にどう生かし広げていくのか、評価の方法を工夫し、指導のてだてを改善していくよう実践することとした。

小学部では、いつでもどこでも、常にコミュニケーションの個別の目標・課題と指導の重点を念頭におきながら、遊びの要素を大切にして、楽しめる教材や環境の設定により自由な雰囲気な中で、できることや楽しいことを十分行い、豊かな生活経験が広がるよう指導がなされた。

中学部では、集団生活における社会性を育てるねらいから、人とのやりとりの場の広がりを意図した大単元を構成して授業づくりに取り組んだ。実践にあたっては、単元ごとに個を生かせる多様なグループ編成の工夫、行動や変容の記録を大切にして次の単元に生かすようにした。

高等部では、授業場面や日常生活指導にあたるとき、一人ひとりの生徒にどのようにアプローチしていくか、評価基準と基本的な関わりを示した６段階のコミュニケーション指導内容表を作成し、実践に努めてきた。

この３年間の研究実践を通しての一番の成果は、何といっても指導者である我々教師が児童生徒のよき理解者・よき聞き手となり、望ましい環境づくりにこころがけるよう努力するようになったことである。そのことが、児童生徒に一歩一歩、コミュニケーションの力をつけ、積極的に人と関わろうとする意欲をもつようになったり、運動会や学習発表会等の場で「よし、もう少し頑張ろう」と自分を向上させようとする意識の高まりのみられる子が現れることにつながってきたように思う。

来年度から学校五日制が一歩進んで、土曜休業日が月２回になることが決定されている。障害児の過ごしかたをみると、家庭で大部分を過ごし、地域社会や公共施設等の利用はごくわずである。学校での活動が家庭でも生かされ、地域で健常者と共に活動するようになることがさらに望まれる。本校児童生徒のコミュニケーションの力は、まだまだ不十分である。しかし、この研究の成果は今後の教育課程全体に生かし、残された課題は次の研究に引き継ぎ、さらに深めていきたいものと考えている。忌憚のないご批正、ご指導を賜りたいと願うものある。

最後に、本研究に３年間ご指導、ご助言をいただいた鳥取大学教育学部の先生方並びに関係各位に厚く感謝の意を表したい。

副校長　太　田　規　夫